	結論	上述の因子が生命予後を規定していた。しかし、多変量解析の結果からは、頚部郭清術を行うことが生命予後の改善につながることは示されなかった。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間直人
	レビューワーコメント	膨大なデータベースからの解析。ただし、全身療法や放射線療法に関する検討はなし。 レベル ⅠV

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Postoperative radiotherapy for cutaneous melanoma of the head and neck region**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ14-8	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ III ）	
	Pubmed ID	7960981	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	30	
	号	4	
	ページ	795-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1994 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ang KK	MD アンダーソン癌センター
	その他著者 1	Peters LJ	同上
	その他著者 2	Weber RS	同上
	その他著者 3	Morrison WH	同上
	その他著者 4	Frankenthaler RA	同上
	その他著者 5	Garden AS	同上
	その他著者 6	Goepfert H	同上
	その他著者 7	Ha CS	同上
	その他著者 8	Byers RM	同上
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	頭頸部原発悪性黒色腫に対し、一回線量 6 Gy を用いた放射線治療が安全かつ有効であるかを検討する	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験（多数例の前後比較試験。第二相前向き試験）	
	セッティング	MD アンダーソン癌センター	
	対象者	174 例（1983 年～92 年） 平均年令：54 才（16-89） Group 1：厚さ>1.5mm、Clark レベル>4、リンパ節腫大なし(79 例) Group 2：臨床的頚部リンパ節腫大(32 例) Group 3：既治療例で頚部リンパ節再発（遠隔転移はなし）(63 例)	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(14)	
	介入（要因曝露）	Group 1：6Gy x 5 回＝30 Gy Group 2：6Gy x 4 回＝24 Gy（術前）、or 6Gy x 5 回＝30 Gy（術後） Group 3：6Gy x 4 回＝24 Gy（術前）、or 6Gy x 5 回＝30 Gy（術後）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所領域リンパ節制御率	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	毒性	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	全体の 5 年局所領域制御率：88%、生存率：47% 術後照射した症例において局所領域制御に腫瘍の厚さ、リンパ節個数、被膜外進展は影響しない。 Group 1 では腫瘍の厚みが増すと 5 年生存率に影響する(100% in <1.5mm, 72% in 1.5-4mm, 30% in >4mm) Group 2 と 3 では 4 個以上のリンパ節転移例では生存率が低い(23% vs. 39%) 急性毒性は軽度で、遅発性毒性は 3 例のみ	

	結論	一回 6 Gy の照射スケジュールは安全である。術後照射を行った場合には、局所制御率は過去の報告に比べ良好であり、1.5-4mm の腫瘍に関しては過去の報告と比べ生存も良好。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間直人
	レビューワーコメント	術後照射に関する数少ない前向き試験。過去のデータに比べ成績は良好。様々な角度から解析を加えており多重解析の可能性がやや気になる。 レベル III

形　式：

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**The role of postoperative adjuvant radiation therapy in the treatment of mucosal melanomas of the head and neck region**	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ14-9	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ⅠⅤ）	
	Pubmed ID	12925346	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Otolaryngol Head Neck Surg	
	雑誌 ID		
	巻	129	
	号	8	
	ページ	864-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2003 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Owens JM	Colorado Health Sciences Center
	その他著者 1	Roberts DB	MD ｱﾝﾀﾞｰｿﾝ癌センター
	その他著者 2	Myers JN	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	頭頸部原発のメラノーマに対し術後放射線療法の意義があるかを検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	Academic tertiary referral center	
	対象者	48 例の頭頸部原発の悪性黒色腫 37 例：口腔または中咽頭、11 例：副鼻腔、2 例：口唇、硬口蓋	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(12)	
	介入（要因曝露）	手術：20 例、手術＋術後放射線療法：24 例 放射線療法 60 Gy/30 回（口腔に関しては 30 Gy/5 回） 再発症例には化学療法(CDDP を含む多剤併用療法)	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	遠隔再発	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	手術単独例 局所再発：45%、遠隔再発：50%、5 年生存率：45% 手術＋放射線療法 局所再発：17%、遠隔再発：46%、5 年生存率：29% （両者のすべてに有意差なし）	
	結論	術後放射線療法は、局所制御率を向上させる可能性はあるが、遠隔転移が多いため生存率を向上させていない。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間　直人
	レビューワーコメント	レベル　IV

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Adjuvant irradiation for axillary metastases from malignant melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（1）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ14-10	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV　）	
	Pubmed ID	11958890	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	52	
	号	4	
	ページ	964-72	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（1）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（2）	
	発行年月	2002 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ballo MT	MD アンダーソン癌センター
	その他著者 1	Strom EA	同上
	その他著者 2	Zagars GK	同上
	その他著者 3	Bedikian AY	同上
	その他著者 4	Prieto VG	同上
	その他著者 5	Mansfield PF	同上
	その他著者 6	Lee JE	同上
	その他著者 7	Gershenwald JE	同上
	その他著者 8	Ross MI	同上
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	腋窩リンパ節郭清後の放射線治療の安全性と有効性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	MD アンダーソン癌センター	
	対象者	1984～99 年までに MD アンダーソン癌センターで放射線治療を受けた 89 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（2）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（14）	
	介入（要因曝露）	腋窩郭清術：腋窩郭清レベル 1～3 まで施行（全例） 術後照射：6Gy／回、週二回、計 30Gy（3 例では一回追加あり）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	2	腋窩リンパ節制御率	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	3	無遠隔転移生存率	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	5 年腋窩制御率：87%、5 年の無遠隔転移生存率：49% 腋窩リンパ節再発に関する予後不良因子（単変量解析）：径 6 cm 以上のリンパ節、原発部位不明、初期治療から 18 か月以内の腋窩リンパ節転移、腫瘍の厚みが 4mm 以上 無増悪生存率に関する予後不良因子：3 個以上のリンパ節転移、18 か月以内の再発 毒性：上肢の浮腫（Grade 1; 21%, Grade 2; 19%, Grade 3; 1%）	
	結論	他の報告に比べ局所再発を 50～70%軽減している。毒性も許容範囲内であり、高リスクの症例では術後照射を行うべきであろう。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間直人
	レビューワーコメント	一施設の後ろ向き研究であり、腋窩リンパ節郭清術後の照射が生存に与える影響は不明である。しかし、ほぼ統一したスケジュールで照射されていること、この他に腋窩リンパ節転移に対する郭清術後の放射線治療を検討した報告がほとんどないことから、注目に値する。 レベル ⅠV

形　式：皮膚がん：MMCQ15-1

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interferon alfa-2b adjuvant therapy of high-risk resected cutaneous melanoma: The ECOG Trial EST 1684.	
	論文の日本語タイトル	ハイリスクの術後皮膚悪性黒色腫に対するインターフェロンアルファ 2b 補助療法：ECOG トライアル EST1684.	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ15-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (II)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J. Clin. Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号		
	ページ	7-17	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1996	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kirkwood JM	Division of Medical Oncology, Univ. of Pittsburgh, PA, U.S.A.
	その他著者 1	Strawderman MH	
	その他著者 2	Ernstoff MS	
	その他著者 3	Smith TJ	
	その他著者 4	Borden EC	
	その他著者 5	Blum RH	

一次研究の 8 項目	目的	T4(tumor thickness>4mm)と N1(旧 AJCC 分類)の悪性黒色腫患者の術後補助療法において、インターフェロンアルファ 2b 投与の有用性を評価する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	ECOG 施設	
	対象者	T4(tumor thickness>4mm)と N1(旧 AJCC 分類)の悪性黒色腫患者 287 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	全国的データベースに基づく調査	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後全生存期間の統計学的比較	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	術後無病生存期間の統計学的比較	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	T4(tumor thickness>4mm)と N1(旧 AJCC 分類)の悪性黒色腫患者において根治術後に高用量の IFN-α を 1 年間、大量投与すると対照群（無処置）に比べ全生存期間（3.8 年対 2.8 年、P=0.0237）、無病生存期間の中央値（1.7 年対 1 年、P=0.0023）に有意差がみられた。	
	結論	ハイリスクの皮膚悪性黒色腫患者における術後補助療法としてのインターフェロンアルファ 2b の高用量投与は全生存期間および無病生存期間の改善に役立つ。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II）	

形　式：皮膚がん：MMCQ15-2

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	High- and low-dose interferon alfa-2b in high-risk melanoma: First analysis of intergroup trial E1690/S9111/C9190.	
	論文の日本語タイトル	ハイリスクメラノーマにおける高および低用量インターフェロンアルファ 2b：グループ内トライアル E1690/S9111/C9190 の初回分析	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ15-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J. Clin. Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号		
	ページ	2444-2458	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kirkwood JM	Dept. of Pathology, Univ. of Pittsburgh Medical Center, U.S.A.
	その他著者 1	Ibrahim JG	
	その他著者 2	Sondak VK	
	その他著者 3	Richards J	
	その他著者 4	Flaherty LE	
	その他著者 5	Ernstoff MS	
	その他著者 6	Smith TJ	
	その他著者 7	Rao U	
	その他著者 8	Steel M	
	その他著者 9	Blum RH	
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	ハイリスクの皮膚悪性黒色腫患者において、術後補助療法としてのインターフェロンアルファ 2b の高用量投与を、全生存期間および無病生存期間について、非投与群と比較検討する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	ECOG 施設	
	対象者	ハイリスクの皮膚悪性黒色腫患者 642 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	全生存期間	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	無病生存期間	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	無再発 5 年生存率には有意差が認められた（44%対 35%）が、全生存期間に有意差は検出されなかった。	
	結論	ハイリスクの皮膚悪性黒色腫患者において、術後補助療法としてのインターフェロンアルファ 2b の高用量投与は、無病生存期間の改善に役立つ。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ II ）	

形　式：皮膚がん：MMCQ15-3

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Evaluation of efficacy of adjuvant rIFN-alfa-2a in melanoma patients with regional nodal metastases(abstract).	
	論文の日本語タイトル	所属リンパ節転移を伴ったメラノーマ患者における rIFN-alfa-2a 補助療法の有用性の評価（アブストラクト）	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ15-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Proc. Am. Soc. Clin. Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号		
	ページ	410	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Cascinelli N	Division of General Surgery "B", National Cancer Institute, Italy
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	低用量インターフェロンアルファ-2a 術後補助療法の有用性の評価	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	WHO23 施設	
	対象者	所属リンパ節転移があった(N1)根治術後悪性黒色腫患者 444 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	無病生存率の比較検討	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	N1(径 3cm 以下の所属リンパ節転移)の根治的郭清後に低用量 IFN-α を週 3 回、3 年間にわたって投与したランダム化比較試験では、対照群（無処置）に比べ 2 年無病生存率（46%対 27%、P=0.01）に有意差がみられた。	
	結論	N1 悪性黒色腫の根治的郭清後に低用量 IFN-α 投与による補助療法は、無病生存率の改善に役立つ。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ II ）	

形　式：皮膚がん：MMCQ15-4

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Adjuvant interferon alfa-2a treatment in resected primary stage II cutaneous melanoma: Austrian Malignant Melanoma Cooperative Group.	
	論文の日本語タイトル	根治術後の II 期皮膚悪性黒色腫におけるインターフェロンアルファ 2a 補助療法：オーストリア悪性黒色腫共同グループ	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ15-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J. Clin. Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	16	
	号		
	ページ	1425-1429	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1998	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Pehamberger H	Dept. of Dermatology, Univ. of Vienna, Austria
	その他著者 1	Soyer HP	
	その他著者 2	Steiner A	
	その他著者 3	Kofler R	
	その他著者 4	Binder M	
	その他著者 5	Mischer P	
	その他著者 6	Pachinger W	
	その他著者 7	Aubock J	
	その他著者 8	Fritsch P	
	その他著者 9	Kerl H	
	その他著者 10	Wolff K	

一次研究の 8 項目	目的	tumor thickness≧1.5mm の皮膚悪性黒色腫患者の術後補助療法において、インターフェロンアルファ 2a 投与の有用性を評価する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	オーストリア・メラノーマ共同研究グループ	
	対象者	tumor thickness≧1.5mm の stage II 悪性黒色腫患者 311 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	無病生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	tumor thickness≧1.5mm の stage II 悪性黒色腫患者において根治術後に対して低用量の IFN-α を 1 年以上投与すると対照群（無処置）に比べ無病生存率の改善（P=0.02）が有意にみられた。	
	結論	tumor thickness≧1.5mm の stage II 悪性黒色腫患者において根治術後に対する低用量の IFN-α 投与は無病生存率の改善に役立つ。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ II ）	

形　式：皮膚がん：MMCQ15-5

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Randomized trial of interferon alpha-2a adjuvant therapy in resected primary melanoma thicker than 1.5mm without clinically detectable node metastases: French Cooperative Group on Melanoma.	
	論文の日本語タイトル	臨床的にリンパ節転移を認めない、腫瘍の厚さ 1.5mm以上の悪性黒色腫根治術後、インターフェロンアルファ 2a 補助療法についてのランダム化トライアル：フランスメラノーマ共同研究グループ	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ15-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	351	
	ページ	1905-1910	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1998	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Grob JJ	
	その他著者 1	Dreno B	
	その他著者 2	del la Salmoniere P	
	その他著者 3	Delaunary M	
	その他著者 4	Cupissol D	
	その他著者 5	Guillot B	
	その他著者 6	Souteyrand P	
	その他著者 7	Sassolas B	
	その他著者 8	CEsarini JP	
	その他著者 9	Lionnet S	
	その他著者 10	Lok C	
	その他著者 11	Chastang C	
	その他著者 12	Bonerandi JJ	

一次研究の 8 項目	目的	T4(tumor thickness>1.5mm)N0 の悪性黒色腫患者の術後補助療法において、インターフェロンアルファ 2b 投与の有用性を評価する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	フランス・メラノーマ共同研究グループ	
	対象者	T4(tumor thickness>1.5mm)N0 の悪性黒色腫患者 499 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	無病生存期間	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	T4(tumor thickness>1.5mm)N0 の悪性黒色腫患者において根治術後に対して低用量の IFN-α を 18 ヶ月投与すると対照群（無処置）に比べ無病生存期間の延長（P=0.035）が有意にみられた。	
	結論	T4(tumor thickness>1.5mm)N0 の悪性黒色腫患者において根治術後に対する低用量の IFN-α 投与は無病生存期間の延長に役立つ。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ II ）

形　式：.皮膚がん：MMCQ16-1

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical study of DAV+IFN-beta therapy(combination adjuvant therapy with intravenous DTIC, ACNU and VCR, and local injection of IFN-beta) for malignant melanoma.	
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫に対する DAV+IFN-beta 療法（DTIC, ACNU, VCR の静脈内投与および IFN-beta の局所投与の併用療法）の臨床試験	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ16-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （Ⅲ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int.J. Immunotherapy	
	雑誌 ID		
	巻	12	
	号	3/4	
	ページ	73-78	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1996	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Yamamoto A	Division of Dermatology, National Cancer Center Hosptal, Japan
	その他著者 1	Ishihara K	Dept. of Dermatology, Showa Univ. School of Medicine, Japan
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		

一次研究の 8 項目	目的	DAV+IFN-beta 療法施行による生存率の改善を検討する	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験（歴史対照との臨床比較試験）	
	セッティング	全国 67 施設	
	対象者	1988-1995 年に根治術を受けたメラノーマ症例の術後患者から登録された 427 例の患者（旧 UICC 分類 I,II,III）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	術後 DAV+IFN-beta 療法	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	術後 5 年生存率の統計学的比較	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	この補助療法は DAV のみの投与の historical control に対し、旧 UICC 病期 III において 5 年生存率が有意差（65.1%対 46.2%）を示した。	
	結論	この療法は旧 UICC 病期 III の悪性黒色腫患者に対し、術後補助療法として生存率が改善する可能性がある。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅲ） ランダム化比較試験は施行されておらず、国際的に認知されたエビデンスレベルの高い治療とはいえないが、海外とは病像が異なり、かつランダム化比較試験が行われ難い本邦の状況を考慮すると現時点では推奨できる。	

形　式：皮膚がん：MMCQ16-2

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫患者における局注 IFN-beta のリンパ移行性について	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ16-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (Ⅴ)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	1	
	号		
	ページ	47-53	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(1)	
	発行年月	1986 鷺見　烈、加藤　優、浦田裕次、遠藤信夫、森　俊二、美濃輪　昇	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	山本明史	岐阜大学医学部皮膚科、日本
	その他著者 1	鷺見　烈	岐阜大学医学部皮膚科、日本
	その他著者 2	加藤　優	岐阜大学医学部皮膚科、日本
	その他著者 3	浦田裕次	岐阜大学医学部皮膚科、日本
	その他著者 4	遠藤信夫	岐阜大学医学部皮膚科、日本
	その他著者 5	森　俊二	岐阜大学医学部皮膚科、日本
	その他著者 6	美濃輪　昇	東レ株式会社臨床開発部、日本

一次研究の 8 項目	目的	悪性黒色腫患者における局注 IFN-beta のリンパ移行性について検討する	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	岐阜大学医学部皮膚科 1 施設	
	対象者	3 例の悪性黒色腫患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）	IFN-beta 局注	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	IFN-beta の組織内濃度の測定	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	局注した IFN-beta は血中への移行が少なく、リンパ移行性が高かった。	
	結論	悪性黒色腫患者における局注 IFN-beta はリンパ移行性が高く、所属リンパ節転移や in-transit 転移の抑制に役立つ可能性がある。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅴ） （幸野案）症例数は少ないが、薬物動態を検討した重要な研究であり、結果はほぼ普遍的と考える。	

形　式：皮膚がん：

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫の新 UICC 病期分類と旧 UICC 分類の比較検討：本邦 342 例に関する解析	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ16-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (Ⅳ)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号		
	ページ	214-220	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(1)	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	野呂佐知子	国立がんセンター中央病院皮膚科、日本
	その他著者 1	山本明史	国立がんセンター中央病院皮膚科、日本
	その他著者 2	山崎直也	国立がんセンター中央病院皮膚科、日本
	その他著者 3	山崎自子	信州大学医学部皮膚科、日本
	その他著者 4	宇原　久	信州大学医学部皮膚科、日本
	その他著者 5	斎田俊明	信州大学医学部皮膚科、日本

一次研究の 8 項目	目的	本邦悪性黒色腫症例について新 UICC 病期分類と旧 UICC 分類によって分類し比較検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	国立がんセンター中央病院+信州大学医学部皮膚科 2 施設	
	対象者	342 例の悪性黒色腫患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　(3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　(22)	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	累積生存率の比較	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	AJCC 症例および本邦症例の stage 別 5 年生存率はほぼ相関しているが、とくに stage IIC においては前者が 45%に対し、後者が 65%、stage IIIB においては前者が 53%に対し、後者が 62%と後者が上まわっている。	
	結論	新病期分類 IIC、IIIB の 5 年生存率は、本邦患者の方が欧米患者のそれよりも優れている。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ）	

形　式：皮膚がん　1

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic factors in 1,521 melanoma patients with distant metastases.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Coll Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	181	
	号	3	
	ページ	193-201	
	ISSN ナンバー	1072-7515 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Barth A,	John Wayne Cancer Institute, Saint John's Hospital and Health Center, Santa Monica,
	その他著者 1	Wanek LA,	
	その他著者 2	Morton DL.	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	病期 IV の患者の予後因子と時代とともに変遷してきた治療種による生存率への影響を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	重要な因子は、遠隔転移部位、遠隔転移前の無病生存期間、遠隔転移前の病期である。転移臓器毎の生存期間中央値と 5 年生存率は、それぞれ、皮膚、リンパ節、消化管：12.5 ヶ月、14%、肺：8.3 ヶ月、4%、肝、脳、骨：4.4 ヶ月、3%。22 年間で治療による生存率の変化はなかった。
	結論	明らかにされた 3 つの予後因子は、今後の臨床試験の計画において考慮されるべきである。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） １５２１人と多数の症例について検討した、重要なデータである。

形　式：皮膚がん　2

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Contemporary surgical treatment of advanced-stage melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg	
	雑誌 ID		
	巻	139	
	号	139(9):	
	ページ	961-6; discussion 6-7.	
	ISSN ナンバー	0004-0010 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Essner R,	Roy E. Coats Research Laboratories, John Wayne Cancer Institute, Saint John's Health Center,
	その他著者 1	Lee JH,	
	その他著者 2	Wanek LA,	
	その他著者 3	Itakura H,	
	その他著者 4	Morton DL.	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	遠隔転移切除後の予後に関わる因子を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	1574 例の遠隔転移切除後の予後に関わる因子をしらべた。 多変量解析で、転移個数（単発）、転移部位（皮膚、リンパ節転移）、所属リンパ節転移を経ない遠隔転移、病期 I,II から IV にいこうするまでの期間、が統計学的に重要な因子であった。
	結論	遠隔転移の切除は有効である。限局した部位、少ない個数の遠隔転移であれば、解剖学的部位を考慮して、根治的な手術を考慮すべきである。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 多数の症例について検討した貴重なデータである。

形　式：皮膚がん　3

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical treatment of metastatic melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Surg.	
	雑誌 ID	175	
	巻	5	
	号	413-7	
	ページ		
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1998	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Fletcher WS,	Department of Surgery, Oregon Health Sciences University, Portland 97201-3098, USA.
	その他著者 1	Pommier RF,	
	その他著者 2	Lum S,	
	その他著者 3	Wilmarth TJ.	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	遠隔転移切除後の予後に関わる因子を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	遠隔転移切除患者 77 例 5 年生存率：単発 12%；多発 0%、完全切除 15%；不完全切除 4%、単発で完全切除 18
	結論	遠隔転移を切除すべき患者は、閉塞や出血などの症状軽減の目的、単発で完全切除できること、連続した病変でも完全切除ができること、組織学的に完全切除が行えると選別された症例、である。 遠隔転移の切除は他の治療法より優れている。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 遠隔転移を切除すべき患者の条件が示された重要な論文である。

形　式：皮膚がん　4

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical therapy for distant metastases of malignant melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer.	
	雑誌 ID		
	巻	89	
	号	9	
	ページ	1983-91	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Meyer T,	Department of Surgery, University Hospital of Erlangen, Germany
	その他著者 1	Merkel S,	
	その他著者 2	Goehl J,	
	その他著者 3	Hohenberger W.	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	遠隔転移切除後の役割を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	174 例の遠隔転移切除患者 生存期間中央値（2 年生存率）は、 全切除患者：7 月（15.8%） 根治的切除：17 月（36.1%） 非根治的切除：6 月（12.7%） 切除なし：4 月（8.1%）
	結論	遠隔転移の切除は根治的にできれば有効である。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 重要な論文である。

形　式：皮膚がん　5

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Metastasectomy in malignant melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Surgery.	
	雑誌 ID		
	巻	115	
	号	3	
	ページ	295-302	
	ISSN ナンバー	0039-6060 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1994	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Karakousis CP	Department of Surgical Oncology, Roswell Park Cancer Institute, Buffalo, NY
	その他著者 1	Velez A	
	その他著者 2	Driscoll DL	
	その他著者 3	Takita H.	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	遠隔転移切除後の予後に関わる因子を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	遠隔転移切除 140 例 全切除患者の、生存期間中央値 19 月、5 年生存率 22%、遠隔皮下転移の 5 年生存率 33%、遠隔リンパ節転移 22%、肺転移 14%だった。 予後因子は、原発巣が薄い、遠隔転移巣の数、遠隔転移出現前の無病期間だった。
	結論	遠隔転移巣の切除は症例を選べば、他の治療よりも高い 5 年生存率が得られる。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 遠隔転移を切除するための条件を明らかにした論文である。

形　式：皮膚がん　6

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Tumor doubling time: a selection factor for pulmonary resection of metastatic melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Surg Oncol. 1998 Dec;69(4):206-11	
	雑誌 ID		
	巻	69	
	号	4	
	ページ	206-11	
	ISSN ナンバー	0022-4790 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（2　）	
	発行年月	1998	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ollila DW,	Roy E. Coats Research Laboratories and the Division of Surgical Oncology, John Wayne Cancer Institute
	その他著者 1	Stern SL,.	
	その他著者 2	Morton DL	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	肺の遠隔転移切除後の予後と腫瘍倍量時間との関係を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	119 例の肺転移切除患者 多変量解析 腫瘍倍量時間 60 日未満の生存期間中央値 16 月、5 年生存率 0%、60 日以上の生存期間中央値 29.2 月、5 年生存率 20.7%
	結論	肺の遠隔転移切除後の予後因子として腫瘍倍量時間が重要である。腫瘍倍量時間 60 日未満の患者は術前に化学療法や生物学的製剤治療を行うことを勧める。これらの治療によって腫瘍倍量時間が 60 日以上にならなければ切除を行うべきではない。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 肺の遠隔転移切除後の予後因子として腫瘍倍量時間の重要性を示し、切除症例の選択と術前治療にも触れている興味ある論文である。

形　式：皮膚がん　7

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Improved survival after resection of pulmonary metastases from malignant melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Thorac Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	52	
	号	2	
	ページ	204-10	
	ISSN ナンバー	0003-4975 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1991	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Gorenstein LA,	Department of Thoracic Surgery, University of Texas M.D. Anderson Cancer Center, Houston
	その他著者 1	Putnam JB,	
	その他著者 2	Natarajan G,	
	その他著者 3	Balch CA,	
	その他著者 4	Roth JA.	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	肺遠隔転移切除の価値を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	56 例の肺転移切除患者 リンパ節転移なしで肺転移のみの生存期間中央値 30 月、その他の症例の生存期間中央値 16 月。 肺転移が最初の遠隔転移である場合の生存期間中央値 30 月、その他の症例の生存期間中央値 17 月。
	結論	単発の肺遠隔転移病巣の切除は有益である。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 他の臓器の転移がなく、単発の肺転移巣であれば長い生存期間が狙えるかもしれないことを示した論文である。ただ、このような条件の患者の未治療での自然史が不明であるので、切除の有益性については不確定な部分が残る。

形　式：皮膚がん 8

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Lung metastases from melanoma: when is surgical treatment warranted?	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	83	
	号	5	
	ページ	569-72	
	ISSN ナンバー	10944593	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Leo F	Department of Thoracic Surgery, European Institute of Oncology, Via Ripamonti 435, Milan,
	その他著者 1	Cagini L	
	その他著者 2	Rocmans P	
	その他著者 3	Cappello M	
	その他著者 4	Geel AN	
	その他著者 5	Maggi G, et al.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	肺遠隔転移切除後の予後に関わる因子を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	肺遠隔転移切除患者 328 例 原発巣の手術から肺転移の手術までの期間 36 月以下、と、多発病巣が悪い予後因子であり、この 2 つがない完全切除患者の 5 年生存率は 29%、どちらか 1 つ：20%、両方ある場合：7%、不完全切除：0%だった。
	結論	原発巣の手術から肺転移の手術までの期間と転移の個数が切除患者の選別の際の簡単で有効な因子である。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 原発巣の手術から肺転移の手術までの期間が重要であることを示した貴重な論文である。

形　式：皮膚がん　9

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical treatment of brain metastases from melanoma: a retrospective study of 91 patients.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Neurosurg.	
	雑誌 ID		
	巻	93	
	号	1	
	ページ	9-18	
	ISSN ナンバー	0022-3085 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Wronski M,	Neurosurgery Service, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, New York, New York 10305, USA.
	その他著者 1	Arbit E.	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	脳移切除後の予後に関わる因子を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	脳転移切除 780 例 生存期間中央値　全：6.7 月、単発：7.8 月、多発 5.4 月 手術前に神経症状がなく、肺や他の臓器に転移がない患者が良い。
	結論	単発、手術前に神経症状がなく、肺や他の臓器に転移がない患者については、脳転移の切除は緩和的に価値があると統計学的に言える。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 脳転移の切除を行う際の患者選択に有益な因子を明らかにしている。

形　式：皮膚がん　10

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical management of cerebral metastases from melanoma: outcome in 147 patients treated at a single institution over two decades.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-10	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Neurosurg.	
	雑誌 ID		
	巻	96	
	号	3	
	ページ	552-8	
	ISSN ナンバー	0022-3085 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2）	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Zacest AC,	Department of Neurosurgery, Royal Prince Alfred Hospital, Camperdown, New South Wales, Australia
	その他著者 1	Besser M,	
	その他著者 2	Stevens G,	
	その他著者 3	Thompson JF,	
	その他著者 4	McCarthy WH,	
	その他著者 5	Culjak G.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	脳転移切除後の予後を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	脳転移切除患者 147 例 術後の症状改善 78% 生存期間中央値　8 月、3 年生存率　9%、5 年生存率　5% 予後因子 多変量解析：統計学的には脳転移巣の数のみ 単変量解析：転移巣の数、完全切除の有無、再発病巣の切除が関連していた。他の臓器転移の有無は統計学的には予後に関連しなかった。
	結論	ほとんどの脳転移については術後放射線療法を組み合わせた手術療法は、症状緩和と多少の生存期間延長に有効である。長期生存は、単発で他の臓器転移がない患者にみられる。再発巣の切除にあたっては適切な症例選択を行う。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 脳転移巣の数が予後因子として重要であることを示した価値ある論文である。

形　式：皮膚がん　11

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical resection for melanoma metastatic to the gastrointestinal tract.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-11	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	131	
	号	9	
	ページ	975-9; 9-80	
	ISSN ナンバー	0004-0010 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1996	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ollila DW	John Wayne Cancer Institute, Saint John's Hospital, Santa Monica, Calif., USA.
	その他著者 1	Essner R	
	その他著者 2	Wanek LA	
	その他著者 3	Morton DL.	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	消化管転移切除の価値を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	消化管転移切除 124 例 生存期間中央値 根治術：48.9 月、緩和的手術：5.4 月、手術なし：5.7 月 手術による症状緩和（根治、緩和両者を含む）：97% 多変量解析：最も重要な予後因子は根治術と消化管が最初の遠隔転移臓器であることの 2 点。
	結論	ほとんど患者は手術によって症状の緩和ができた。消化管転移の切除は条件を満たす患者については強く考慮されるべきである。
	備考	
ﾚﾋｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 消化管転移でも条件を満たせば外科的治療が非常に有益であることを示した価値ある論文である。

形　式：皮膚がん　12

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgery for melanoma metastatic to the gastrointestinal tract.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-12	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	6	
	号	4	
	ページ	336-44	
	ISSN ナンバー	1068-9265 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1999 Jun;6(4):336-44.	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Agrawal S	Department of Surgery, Columbia University College of Physicians and Surgeons, New York
	その他著者 1	Yao TJ	
	その他著者 2	Coit DG	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	消化管転移切除の価値と予後に関わる因子を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	消化管転移切除患者 68 例 生存期間中央値 8.2 月、5 年生存率：18% 手術による症状緩和 90%（n=61） 多変量解析：根治術（生存期間中央値 14.9 月、5 年生存率 38%）と術前血清 LDH が低値(生存期間中央値 13.6 月、5 年生存率 35%）の 2 点が重要な因子だった。
	結論	消化管転移の切除は緩和を目的とした治療として勧められる。根治術が可能で、術前血清 LDH が低値の場合は、生存期間の延長が期待できる。
	備考	
ﾚﾋｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 術前血清 LDH が重要な因子であることを示した点で興味深い論文である。

形　式：皮膚がん　13

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Gastrointestinal metastases from malignant melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-13	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Surg Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	4	
	号	2	
	ページ	105-10	
	ISSN ナンバー	0960-7404 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ricaniadis N,	Department of Surgical Oncology, Roswell Park Cancer Institute,
	その他著者 1	Konstadoulakis MM,	
	その他著者 2	Walsh D,	
	その他著者 3	Karakousis CP.	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	消化管転移切除の予後因子
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	症例数 21 根治術ができ、他の臓器に転移なしの患者の生存期間中央値 27.6 月、5 年生存率 28.3%。 根治術ができたが他の臓器に転移ありの患者の生存期間中央値 5.1 月。 症状緩和のためのバイパス術のみの患者の生存期間中央値 1.9 月
	結論	根治術と他の臓器に転移がないことが重要である。この条件を満たす患者に手術療法を行うべきであり、根治術ができた患者には大きな緩和効果がえられる。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 消化管転移切除の選択基準として、根治術と他の臓器転移の有無が重要であることを示した論文である。症例数が少ない。

形　式：皮膚がん 14

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical resection for metastatic melanoma to the liver: the John Wayne Cancer Institute and Sydney Melanoma Unit experience.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-14	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	136	
	号	8	
	ページ	950-5	
	ISSN ナンバー	0004-0010 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2001	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rose DM	John Wayne Cancer Institute, Santa Monica, CA , USA.
	その他著者 1	Essner R	
	その他著者 2	Hughes TM	
	その他著者 3	Tang PC	
	その他著者 4	Bilchik A	
	その他著者 5	Wanek LA, et al.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	根治的な肝臓転移の切除によって長い生存がえられるか
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	34 例の肝臓転移切除患者（１７５４例の肝臓転移患者の２%） 無病生存期間中央値 12 月、全生存期間中央値 28 月、5 年無病生存率 12%、5 年生存率：29%。 手術患者の生存期間中央値 28 月、切除なし 4 ヶ月。 単変量解析では肉眼的および組織学的な根治術の確認が重要な予後因子だった。
	結論	他の臓器転移巣と同様に肝臓転移巣も症例を選別すれば、切除によって無病生存期間と全生存期間の改善が期待できる。遠隔転移が限局している場合は、根治術を考慮すべきである。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 肝臓転移が手術の適応になる症例は少ないが、もし、そのような患者がいれば、治療の選択肢として外科手術は有効かもしれない。選択的動注、塞栓療法との優劣が問題となるかもしれない。

形　式：皮膚がん１５

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Long-term survival after complete resection of melanoma metastatic to the adrenal gland.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-１５	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．１つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	6	
	号	7	
	ページ	633-9	
	ISSN ナンバー	1068-9265 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1999	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Haigh PI	Roy E. Coats Research Laboratories and the Division of Surgical Oncology, John Wayne Cancer Institute at Saint John's Health Center
	その他著者 1	Essner R	
	その他著者 2	Wardlaw JC	
	その他著者 3	Stern SL	
	その他著者 4	Morton DL.	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	副腎転移切除後の予後を調べる。
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	副腎転移 83 例中切除 27 例 切除患者の生存期間中央値 9.3 月 根治的切除患者の生存期間中央値 25.7 月 緩和的切除患者の生存期間中央値 9.2 月
	結論	単発か限られた個数の副腎転移で、他の臓器に転移がなければ、外科的治療は有益である。
	備考	
レビューワーコメント		宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV　） 副腎転移に関す貴重な論文である。

形　式：皮膚がん 16

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical treatment of splenic metastases in patients with melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	MMCQ17-16	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．１つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Coll Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	197	
	号	1	
	ページ	38-43	
	ISSN ナンバー	1072-7515 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	de Wilt JH,	Sydney Melanoma Unit and The Melanoma and Skin Cancer Research Institute, Royal Prince Alfred Hospital, New South Wales, Australia.
	その他著者 1	McCarthy WH,	
	その他著者 2	Thompson JF.	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	脾臓転移切除の予後に関わる因子を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	脾臓転移の手術を行った群 15 例、緩和的治療を行った対照群 98 例 痛みを伴う 7 例全例で手術により症状が改善された。 手術を行った患者全員の生存期間中央値は 11 月、単発の転移を切除した患者の生存期間中央値は 23 月、手術をしない緩和群の生存期間中央値は 4 月だっ
	結論	脾臓摘出は症状のある脾臓転移患者には良好な緩和的効果をもたらす。転移が単発の場合は脾臓摘出によって長い無病生存期間が得られる。
	備考	
レビューワーコメント		宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV　） 記述の少ない脾臓に関する貴重なデータである。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Regional treatment options for patients with ocular melanoma metastatic to the liver.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ18－1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号	3	
	ページ	290-7	
	ISSN ナンバー	1068-9265 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2）	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Feldman ED,	Surgical Metabolism Section, Surgery Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, Maryland 20892-1502, USA.
	その他著者 1	Pingpank JF,	
	その他著者 2	Alexander HR, Jr.	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	悪性黒色腫の肝転移の治療のレビュー
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	手術、全身化学療法、肝動注、塞栓療法についてのレビュー
	結論	
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅤ　） 肝動注、塞栓療法についてのこれまでの報告例についてまとめてあり、一読の価値がある。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of uveal melanoma metastatic to the liver: a review of the M. D. Anderson Cancer Center experience and prognostic factors.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ18－2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	76	
	号	9	
	ページ		
	ISSN ナンバー	0008-543X (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2）	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bedikian AY,	University of Texas M.D. Anderson Cancer Center, Houston 77030, USA.
	その他著者 1	Legha SS,	
	その他著者 2	Mavligit G,	
	その他著者 3	Carrasco CH,	
	その他著者 4	Khorana S,	
	その他著者 5	Plager C, et al.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	肝臓転移を起こした眼球悪性黒色腫の予後因子
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	MD Anderson。 23年間 201 例の肝転移眼球悪性黒色腫の予後因子の検索。全身化学療法の RR1%以下。塞栓化学療法は 36%。多変量解析では血清アルカリフォスファターゼと転移のなかった期間。
	結論	眼球悪性黒色腫の肝転移の治療としては CDDP を中心とした化学塞栓療法のみが奏効率の意義ある改善を供する
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅤ　） 多数例について解析した重要な論文である。必ず目を通す必要がある。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Regression of ocular melanoma metastatic to the liver after hepatic arterial chemoembolization with cisplatin and polyvinyl sponge.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ18－3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Jama.	
	雑誌 ID		
	巻	260	
	号	7	
	ページ	974-6	
	ISSN ナンバー	0098-7484 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2）	
	発行年月	1988	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mavligit GM,	Division of Medicine, University of Texas M.D. Anderson Cancer Center,
	その他著者 1	Charnsangavej C,	
	その他著者 2	Carrasco CH,	
	その他著者 3	Patt YZ,	
	その他著者 4	Benjamin RS,	
	その他著者 5	Wallace S.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	CDDP と polyvinyl sponge による肝動注塞栓療法の臨床効果を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	症例数 7 例　生存期間中央値：肝転移のみ 4 例：19 月+、多臓器転移あり：5 月。
	結論	肝動注有効だが、多臓器転移があると効果は限られる。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅤ　） 症例数が少ないが、肝動注の適応を考える際の参考となるデータを含む。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of ocular melanoma metastatic to the liver by hepatic arterial chemotherapy.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ18－4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Clin Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号	7	
	ページ	2589-95.	
	ISSN ナンバー	0732-183X (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2）	
	発行年月	1997	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Leyvraz S,	Centre Pluridisciplinaire d'Oncologie and Department of Ophthalmology, University Hospital, Lausanne, Switzerland.
	その他著者 1	Spataro V,	
	その他著者 2	Bauer J,	
	その他著者 3	Pampallona S,	
	その他著者 4	Salmon R,	
	その他著者 5	Dorval T, et al	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	fotemustine による肝動注塞栓療法の臨床効果を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	眼球悪性黒色腫の肝転移。　評価可能症例 30 例　奏効率 40%、奏効期間中央値 11 月、生存期間中央値 14 月、LDH が予後因子、副作用は軽く、外来中心で投与可能だった。
	結論	塞栓術と同等の奏効率と生存期間がえられた。RCT が必要である。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） Fotemustine による肝動注塞栓療法の臨床効果に関する代表的な論文。Fotemustine は本邦では薬価収載されていない。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of disseminated ocular melanoma with sequential fotemustine, interferon alpha, and interleukin 2.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ18－5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer.	
	雑誌 ID		
	巻	87	
	号	8	
	ページ	840-5	
	ISSN ナンバー	0007-0920 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2）	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Becker JC,	Department of Dermatology, University of Wurzburg, Germany.
	その他著者 1	Terheyden P,.	
	その他著者 2	Kampgen E,	
	その他著者 3	Wagner S,	
	その他著者 4	Neumann C,	
	その他著者 5	Schadendorf D, et al	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	Fotemustine による肝動注の臨床効果を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	48 例　眼球悪性黒色腫の肝転移症例に対する肝動注 VS 静注の比較。全奏効率は肝動注 VS　静注 21.7 vs 8%だが、生存期間は 369 and 349 days で差なし。Fotemustine の肝動注による生存期間中央値は、肝動注以前の fotemustine 以外の薬剤による静脈投与法によって得られた生存期間より長かった。このことは fotemustine が他の薬剤の静脈投与既治療例にも有益であることを示している。
	結論	
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅤ　） 肝動注と静脈投与法で生存期間があまり変わらないというデータである。Fotemustine は本邦では薬価収載されていない。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Chemoembolization of the hepatic artery with BCNU for metastatic uveal melanoma: results of a phase II study. Melanoma Res.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ18－6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Melanoma Res. 2005 Aug;15(4):297-304.	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号	4	
	ページ	297-304	
	ISSN ナンバー	0960-8931 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Patel K,	Division of Medical Oncology, Department of Medicine, Thomas Jefferson University,
	その他著者 1	Sullivan K,	
	その他著者 2	Berd D,	
	その他著者 3	Mastrangelo MJ,	
	その他著者 4	Shields CL,	
	その他著者 5	Shields JA, et al.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	BCNU の肝動注の臨床効果を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	眼球悪性黒色腫肝転移症例に対する 1,3-bis(2-chloroethyl)-1-nitrosourea (BCNU) の効果。24 例で奏効率２０．4%　生存期間中央値 5.2 月、CR, PR 患者 21.9 月、SD8.7 月、PD3.3 月。
	結論	BCNU 肝動注は有効である。肝病変コントロール後の肝外病変の治療手段の改善が必要である。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅤ　） BCNU に関するデータ。BCNU は本邦では薬価収載されていない。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Intra-arterial hepatic carboplatin-based chemotherapy for ocular melanoma metastatic to the liver. Report of a phase II study	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ18－7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Tumori.	
	雑誌 ID		
	巻	80	
	号	1	
	ページ	37-9	
	ISSN ナンバー	0300-8916 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2）	
	発行年月	1994	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Cantore M,	Oncology Department, Civil Hospital of Mantova, Italy.
	その他著者 1	Fiorentini G,	
	その他著者 2	Aitini E,	
	その他著者 3	Davitti B,	
	その他著者 4	Cavazzini G,	
	その他著者 5	Rabbi C, et al.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	Carboplatin の肝動注の臨床効果を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	眼球悪性黒色腫の肝転移 8 例。奏効率 38%、生存期間中央値 15 月
	結論	Carboplatin の肝動注は有効である。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ ） Carboplatin の肝動注の効果について報告している。症例数が少ない。本邦で使用可能である。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Intraarterial chemotherapy of malignant melanoma metastatic to the liver.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	CQ18－8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	epatogastroenterology.	
	雑誌 ID		
	巻	48	
	号	42	
	ページ	1711-5	
	ISSN ナンバー	0172-6390 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2）	
	発行年月	2001	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Melichar B,	Department of Oncology & Radiotherapy, Charles University Medical School & Teaching Hospital, Building 23, 500 05 Hradec Kralove, Czech Republic.
	その他著者 1	Dvorak J,	
	その他著者 2	Jandik P, l	
	その他著者 3	Touskova M,	
	その他著者 4	Solichova D,	
	その他著者 5	Megancova J, et al	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	cisplatin, vinblastine、 dacarbazine, または melphalan, +/-interleukin-2, interferon-alpha、interferon-gamma の肝動注の臨床効果を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	症例数 7 例　生存期間中央値：肝転移のみ 4 例：19 月+、他臓器転移あり：5 月。
	結論	肝動注は有効だが、他の臓器転移があると効果は限られる。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ ） 症例数は少ないが、肝動注の適応を考える際の参考になる。